

令和元年度中学校武道授業(相撲)指導法研究事業



研究協議の様子

令和元年度中学校武道授業(相撲)研究事業(主催＝日本武道館、日本相撲連盟、日本武道協議会、後援＝スポーツ庁、徳島市教育委員会)が10月21日～22日の2日間、徳島市川内中学校(初日)並びに徳島県郷土文化会館(2日目)にて研究者9名、連盟事務局1名が出席して実施された。

本研究事業は、平成24年度から完全実施された中学校武道必修化の充実に向け、現行学習指導要領に準拠し、年間8～10時間の授業時間想定で、各武道種目の特性を踏まえた指導計画、指導内容、指導法、評価等について、教育効果の上る武道授業(相撲)指導法の研究会を実施するものである。

徳島県内の中学校では現在20校が相撲授業を実施。徳島県南部では神社での奉納相撲が定着しており、相撲が盛んな地域である。今回会場となった徳島市川内中学校では、武道授業は1年時のみで相撲を実施しており、昨年度は男女共修、2クラス合同で12時間実施した。本年度は7時間の相撲授業を予定しており、徳島県相撲連盟から派遣される外部指導者が1～3時間目を担当し、後半は保健体育科の教員が指導する予定である。

■1日目(10月21日)

◇開講式

校長室にて開講式が行われた。はじめに安井和

男日本相撲連盟専務理事が挨拶に立ち、「生徒にとって分かりやすく、現場の先生方が教えやすい指導内容を検討していきたいと思います。また、今後は外部指導者の充実を図っていかねばならないと考えています。今回の授業視察では、それらのことを踏まえつつ、しっかり研究していただきたいと思います。二日間と短い期間ではありますが、よろしく願いいたします」と述べた。

次に、中島昭博日本武道館振興課長が挨拶に立ち、「徳島市川内中学校のご協力をいただき、今回の授業視察が実現いたしました。授業視察並びに研究協議を経て、相撲の素晴らしさを全国の中学生に伝えられるよう、また、生徒が主役の安全で楽しく、効果の上る相撲授業を研究していただきたいと思います。本研究事業が充実したものとなることを期待しています」と述べた。

続いて、沖健治徳島県教育委員会体育学校安全課指導主事が挨拶に立ち、「徳島県内の中学校82校中20校が相撲の授業を実施しており、そのうち3校で外部指導者が指導に当たっています。本研究事業を経ることにより、子ども達への指導が益々充実することを期待しています」と述べた。

続いて、山根祥道^{やまねよしみち}徳島市川内中学校教頭が挨拶に立ち、「本校では数年前から相撲授業を実施していますが、非常に充実した授業ができています。大きな声で挨拶ができるようになったり、礼儀正

しくなったりと、相撲授業による効果を実感しています。今後も相撲を通して、歴史や文化に触れながら、生徒たちを指導していきたいと考えております」と述べた。

◇授業視察

開講式後、場所を体育館に移し、授業視察を行った。視察時は、7時間授業の1時間目の授業で、外部指導員の澁谷元張^{しぶやもとほろ}氏が心となり、保健体育科教員2名が補助として授業が行われた。

澁谷氏は授業開始にあたり「武道は礼に始まり礼に終わります。武道の一つである相撲を通じ、日本の伝統文化を学んでいただきたい。相撲は普段とらない姿勢や、体力的にきつい動作もありますが、自分に打ち克つ強い心をぜひ養っていただきたいと思います」と述べた。

準備運動後、相撲の礼法となる“蹲踞^{そんきょ}”、“塵浄水^{ちりじょうず}”を行った。塵浄水について「手に何も持たず、正々堂々と戦う意思表示である」と説明した。

礼法につづき、“四股”を「1・2・3」の号令に合わせて行った。四股について、身体の柔らかさや筋力強化を養うことができるとした。

続いて、基本姿勢となる“中腰の構え”、“すり足”を行った。中腰の構えについて、「膝を外側に向け、脇を開かないように肘を胸の前に構えることが大切」と説明した。すり足については、「4歩前に進み、最後に手を伸ばして相手を押し出すイメージを持つように」と説明した。



その後、2グループに分かれ、1グループずつマットを使って体育座りの姿勢から後ろに倒れる“ゆりかご受身”を行った。「後ろに倒れるときはへそを見るようにし、頭を打たないように注意すること。また、転ぶときに手を後方につくと体

重がかかり危険なので、手をつかないように」と注意事項を説明した。

最初はどこか恥ずかしそうに取り組んでいた生徒たちも澁谷氏の熱心な指導により、次第に真面目に取り組み、授業後半では皆真剣に指導内容を聞いていた。

◇研究協議

授業視察後は、場所を図書室に移し、山根教頭及び体育教員2名を交えて、授業の振り返りを中心に検討協議を実施した。

山根教頭は、「相撲は勝負の判定がシンプルであり、生徒たちが意欲的に取り組める教材だと思う。授業の導入部分で実際に本物を見て、専門家の指導を受けることにより、生徒の意識は変わり、良い効果がある。また、基本的なことは我々でも教えられるが、試合となると難しい部分がある」と外部指導者による授業展開について述べた。また、中学校での相撲授業採用校数の増加促進について、「県で実施していただいている武道の研修会に参加すると、多種目に比べ、相撲の講師数が圧倒的に少ない。指導員を充実させることが必要だと思う」と課題を述べた。

■2日目(10月22日)

◇研究協議

会場を徳島県郷土文化会館(あわぎんホール)会議室に移して行った。まず、昨日の授業視察についての検討協議がなされた。特に外部指導者の授業への関わり方や声掛けの仕方、指導方法についての振り返りを行った。

続いて、11月に開催される第6回全国相撲指導者研修会について、指導内容・プログラムの詳細検討を行い、最終確認をした。

その後、桑森真介研究者より少年少女向けの相撲の『指導書』作成について概要説明が行われ、研究協議は終了した。

◇閉講式

研究者代表挨拶を浦島三郎研究者が主催者挨拶を、中島昭博日本武道館振興課長がそれぞれ行い、指導法研究事業の全日程を終了した。